

Lightning vol.31



ニッポン旧車!

VINTAGE AUTO



4



新車と旧車の違いを
徹底解説！



Hot Impression

ヤマ編の

ホンネで語る リアルインプレ!

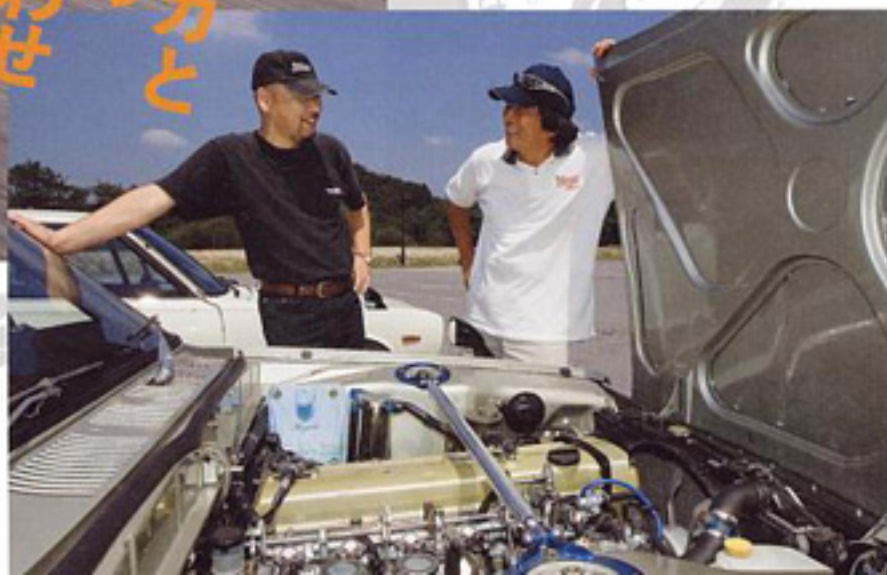
30年以上も前のクルマに今の感覚で全てを求めてはならないことは百も承知だ
でも、もし可能であれば心配ことの少ない快適なクルマで昔の雰囲気を楽しみたい
そんなお行儀のいい大人のクルマ好きに、うってつけのコンセプトを発見!

ローンキーオートがプロデュースする注目の1台に早速乗ってみて

Photo: T. Fukushima 写真提供

Rocky Auto / Rocky Auto (ローンキーオート) phone: 0564-58-7080

「R'72箱スカとRB25の取り合わせその乗り味や如何に!」



今回試乗させていただいたクルマの生みの親、渡辺社長(左)は、様々なクルマに乗ってきたクルマ好きでもある。だから素直なクルマ作りができるのだ。

Hot Impression

1972 Skyline

2HT RB25 Sport Injection

過給箱スカのスポーティモデル
2ドアハードトップに、ニッサンの傑作RB25を搭載
その走りと驚くべき快適性を実感してみた

箱スカには時代を超越した魅力的なディテールが随所に存在する。それらの魅力はそのままに、普段の足としても快適に使える。それがローンキーオートの基本コンセプトだ。



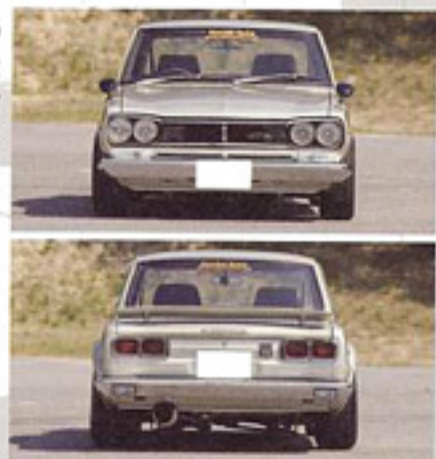


Hot Impression
1972 Skyline
 2HT RB25
 Sport Injection



2ドアハードトップの流麗なボディ。サイドに流れるサーフラインといわれたキャラクターラインを分断するよう大きくえぐられたオーバーフェンダーの光りもまた、いわゆるGT車ルックに、特別な思いを込めたファンも多いはず。S20以上の性能を有するRB25搭載のこのスタイルはNEO GT-Rとでも形容すればいいのだろうか。走りも快適性もモダンなクルマへとリメイクされているのだ。

「ああしたい」「こうしたい」を
 実現した理想のヴィンテージ



このイカついフロントマスクはスカイラインのイメージを象徴する。この顔で遠くまで走り進めたら、自動車好きはドキドキするに違いない。

注目のエンジンは本来のL型エンジンに換わってRB25+OER6連スロットルを搭載、エンジンマネージメントはFコンにVプロとなともモダンなスペックをまとめている。これだけならいわゆるエンジンスワップという話なのだが、注目すべき点は以上のカスタマイズに加え、なんとR32用オートエアコンとパワーステアリングも装備されていることである。オートエアコンで真夏も快適、パワステで狭い駐車場もラクラクと聞けば、ちよつと緑地帯と思っていたヴィンテージカーが、気に身近な存在に感じられる人も多いことだろう。ところが、驚くことにそ

内容の快
 内容は私
 快くは私
 送る！
 送る！



当時のレースマシンに採用されていたウイングタイプのスロイカーはマニマニ追加された。



セス、ブレーキのコン
 トロール性能などは今の
 クルマと比べても遜色
 のないものである。



RB25に組み合わせているのは、6速スロットルのインジェクション仕様。他にRE+ソレックス6速キャブというなんとマニアックなオーダーも可能であるという。



ロッキーオリジナルのステンレスマフラー。太い出口パイプは30年間以上の時を越した。ただ者ではない雰囲気を醸し出す。



等長のステンレスパイプで構成されるEXマニホールドも快調。パワーアップはもちろん気持ちのいいサウンドを実現している。



ノーマルの排気量を意識したRB20でもなく、パワー重視のRE26+ターボでもなく、快適さとパワーのバランスからRB25のNAを採用している。

プリンススカイライン時代からの伝統的な丸テールは箱スカから角テールに変更。以後、再びケンメリからの丸テールまで、GTカーの象徴のように丸テールは走り好きに愛され続けた。

レンズがフラットでカットも今風の丸目4灯のヘッドライト。もちろんシールドビームなどではなく、車体のキャラクターに合わせてHIDに変更されている。細かい気配りが嬉しい部分だ。

快適な旧車というテーマは、言い換えればモダンとレトロの融合でもある。ロッキーオート流のコーディネートでセンスよくまとめ上げている。



の進化はさらに続くのである。エンジンとくれば、当然そのスペックに伴う足回りも必需品となる。そこでサスペンションはオリジナルのフルラップ車高調整にピロアッパIを採用。さらにテンションロッド付きのストラットタワーバーやレーシング用の中空スタビなどを使って、これでもか！といったゴージャスな足を確保している。気になるブレーキも枚数ではなく、フロントはR32タイプM用4ポットキャリパーにローターはホンダS2000から流用。リアはスカイラインジャパン用のキャリパーとローターを組み合わせて強化を図っているのだ。

驚きはさらに続く。なんとロッキーオートの徹底したクルマ作りはボディワークにまでおよぶのだ。旧車の場合一般的に左右のねじれ方向よりも縦方向の強度が厳しと言われている。そこで長年の経験と蓄積のあるロッキーオートではその解決策として、フロントとリアフレーム、さらにステッパ付近に補強鋼材を溶接、接合することでフロア全体を強化する手法を用いているのだ。レーシーに、室内にロールケージを組む方法もあるのだが、ロッキーはあくまでもシャシーの強化にこだわる。オリジナル然としたボディや室内の雰囲気大切に、確実に剛性アップを果たしているのだ。そう、つまりロッキーオートのクルマは、大人がさりげなく楽しむハイグレードを追求、実現しているのだ。

Hot Impression
 ホンネで語る
 リアルインプレ!



「大人向けの味付けが嬉しい
こんなスカGが欲しかった！」

ストレスなく吹き上げるエンジンに、思わず鼻歌を歌いたくなる気分が味わえた。本当にドライブするのが楽しいクルマであった。

ロッキーオートがプロデュースする国産旧車には一環してひとつのポリシーが貫かれている。それは、旧車とはいえクルマはクルマ、あくまでも走ってナンボの道具である！という実に明快なものだ。さらに、実用性を重んじるがゆえに特に気を配っている部分もある。それは、クルマは走る道具なのだから安全で快適でなければならず、旧車という趣味性の高い乗り物である以上、それを操る楽しみを安心して堪能してもらいたい、という気持ちだ。実は、今回私がロッキーオートに注目した最大の理由もそこにあった。

多くの旧車マニアがそうであるように、今改めて国産旧車に乗りたいと思うユーザーの多くは、現在ちやんとしたファーストカーに乗っている人が多い。つまり、好んでリスクのない世界に足を踏み入れるのは、今の状態に飽きてしまった、あるいは何か新しい刺激を求めるといふユーザー意識に基づいていると推測することができよう。そんな国産旧車潜在オーナーとでも言うべき人たちは、旧車をコッポフとオリジナルに忠実にレストアし、いつ壊れるか

わからないマシンを心配しながらも誠実に付き合うタイプ（もちろんその部分もそれはそれで楽しいわけだ）と、今様々なモノが氾濫する中で、古いモノが持つ独特のテイストをお洒落感覚で自分のワードローブとして気軽に取り入れたい！というタイプに大別できるだろう。そしてロッキーオートが提案する国産旧車趣味の世界は、明らかにその後者の人々に焦点を合わせたものといえる。かく言う私も何を隠そう典型的な後者である。箱スカや510の持つ雰囲気は大好きで、あの様々な思い出が集約された雰囲気を、日常の足として今使えたらどんなに楽しいだろう……と、常々思っている。極端な話、中身はマーチやシルビアでもいいから、外観だけでも510や箱スカみたいなクルマがあればけっこうラクラクするんだけどな、というオリジナル絶対主義な旧車マニアではないのである。

とまあそんな私であるがゆえ、広告や口コミでロッキーオートのクルマを見たり話を聞いたりしてドキド

キしたのは、当然のなりゆきともいえるのである。「箱スカにRB積んで、深い足回り組んで、エアコンバワステが装着されているんですよ！」という内容をスタッフの一人から聞き、そのコンセプトに共鳴すると同時に、「それぜひ乗ってみてい！」と思った次第だ。そんなわけで私は早速ショップに電話を入れ、カメラマンと共に東名高速を同時に向けてスワフ飛ばしたのであった。

わが車は間違いなく活気に満ちたオートは間違いなく活気に満ちたオートを出していた。ショップに入る代表の渡辺氏が直々に迎え入れてくれた。挨拶もそこそこクルマの話になり、いろいろとやりとりをする中で、ショップ内には作り笑いが得意なディーラーや無愛想なチューニング専門ファクトリー（それはそれでいい味ではあるが）のどちらにもない、独特の雰囲気（？）に満ちていることを私は感じることができた。そして話が弾むにつれ、その雰囲気も本心にクルマ好きであり、販売人である前に強烈な趣味人として生きている渡辺氏が放つ独特なものであるということが理解できたのである。



旧車との付き合い方は千差万別。でも異封せず美しくってのが基本であるべきなのは間違いない。ロッキーオートのスカGは現代のユーザーニーズにしっかり対応したクルマといえるだろう。それにしてもこの加速、サイコーっ！



Specifications

- エンジン
RE25DE (本体ノーマル)
OEM6速スロットル+FコンVプロ制御・スタンレスEXマニホールド
ワンオフステンレスストリートマフラー
- ブレーキ
フロント:R32タイプM4ポットキャリパー
ホンダS2000用ディスク
- ミッション
リア:スカイライン(ジャパン)用キャリパーディスク
- ボディ
ステップ(ドア下)・フロアセンター・フレーム補強
- サスペンション
フロントオリジナルフルタップ車高調+ピ

- リアサスペンション
リア:エナベタルショート加工
前後中置レール用ピロ式スタビライザー
- マフラー
フロント:R32タイプM4ポットキャリパー
ホンダS2000用ディスク
- ボディ
リア:スカイライン(ジャパン)用キャリパーディスク
- ボディ
ステップ(ドア下)・フロアセンター・フレーム補強
- サスペンション
フロントオリジナルフルタップ車高調+ピ

ワインテージオート読者の中には、模型趣味をお持ちの方も多しことだろう。とすれば、いわゆる模型屋には大きく2種類の店があることを思い出していただきたい。ひとつはあらゆる商品が所狭しと並び、レジにはバイトのお姉さんがいてリーズナブルな料金で何でも買えるショップ。もうひとつは名物オヤジが存在し、欲しい模型は棚の奥に潜んでいる逸品、でも買う前にはまず話すことからは始まり、納得のいくまで会話をしながら興味性を高め、売る側にも納得してもらって初めて買えるお店だ。もちろんロッキーオートはその後者の部類であるが、しかし相談相手は模型屋にありがちなガンコオヤジではない。なんでも聞いてくれ、それに対してプロとしての的確なアドバイスをしてくれる優しいオーナーがいるのだ。つまり、見ようによつてはとんでもなくマニアックなクルマが並んでいるが、それに興味を持つた人には、どのような質問に対してもそのレベルに合わせて、わかりやすく細かく対応してくれるのである。

そんなロッキーオートの懐の深さを感じながら、今回渡辺社長に試乗を薦められたのがご覧の箱スカ2目T、RB25スポーツインジェクション

のは、ストップアンドゴーを繰り返す街中において、外のうだる様な暑さとは真逆に、その室内のなんと快適なことか！ 揺るしのクーラーやパワーの小さなエアコンでは実現できない快適さを、純正のオートエアコンがきっちりいい仕事をしながら確保してくれているのだ。

「今日はまず、ウチのスポーツインジェクションに乗ってもらいます」と言いつつ、自らエンジンに火を入れ、渡辺社長は「高速道路で楽しんでみてほしい」と自信ありげに私にそう言った。

シートにドッカと座り、まずはインパネを見回す。私は普通免許を取って最初に買ったのが中古のGC10だったこともあり、懐かしさを覚えながらの作業だ。そしてダッシュセンターに液晶数字を光らせる見慣れない小さなパネルを見つけた。それが「なるほどコイツがそうか」と思いながら、その温度表示を26度に設定してショップをスタートした。当日は残暑が厳しく、外気温は35度にもなるかという暑さであった。

「1速、2速と普通に加速させるつもりでアクセルを踏むと、クルマは意に反してすぐさまタコメーターの針が踊り上がってしまう。パワーウエイトレシオの差をダイレクトに感じる瞬間だ。あまり踏みすぎないようには注意しながらまずは街中を走らせてみる。乾いた感じで室内に入ってくるエキゾーストサウンドはけしきうるさくはないが、マニマ心をくすぐる音質だ。そしてなによりも驚く

Hot Impression

ホンネで語るリアルインプレ!